

言語文化学科

ドイツ語 フランス語圏
言語文化 コース
フランス語圏言語文化領域

フランス語圏言語文化領域 とは

フランス語圏というのは、ベルギー、カナダ、モロッコ、両コンゴ、ハイチ等々、仏語話者のいる国・地域のことですが、世界で3億人が話す仏語は、国連の作業語が英仏2言語なことや、学習言語のトップ2は英仏語なことが示すように、英語に並ぶ世界言語です。この領域では、その仏語力を培いつつ、フランスとフランス語圏における言語、文化、社会、歴史、ファッションについて、日本や他地域と比較しつつ学びます。卒論タイトル一覧 (http://yakitori.lit.osaka-u.ac.jp/user/frn/?page_id=50) からわかる研究テーマの広さと自由さは、この領域の先生たちの懐の広さと、専門外のことでも共に学んでくれる優しさの現われです。だから、エッフェル塔しか知らない人でも、その背景のバリ万博、そのまた背景の植民地主義など、世界を深く知ることができずし、仏語教育と複言語・複文化主義を通じて、世界平和の理念やコミュニケーション研究にもふれることができるのです。



教授 ぶくしま よしゆき
福島 祥行 先生

先生の研究

多くの研究は、「人と人（および環境）とのやりとり（相互行為 interaction）」で、応用社会言語学なのですが、哲学、社会学、心理学、教育学要素も多分にあります。卒論では冠詞の研究をしました。定冠詞か不定冠詞の選択は話し手の自由ではなく、聞き手とのやりとりのなかで決まります。じつは、言語そのものが、話し手と聞き手（をふくむ文脈・環境）の協働で創られているのです。たとえば、ふたつの顔写真から一方を選んでもらったあと、じつは選んでない方を見せて「選んだ理由を話してください」というと、人はなめらかにその理由を説明します。選んでなかったのに！ つまり、発話後に周囲の要素から「いいかつたこと」をつくりあげ意識化しているわけで、他人がいなければ、じぶんが何をいいたいかもわからないままでしょう。ほかには「ひとりでできないもん」な存在なのです。

● 学生にインタビュー

○コースに入ったきっかけ
私がこのコース（仏文）に入ったきっかけは、フランス語の奥深さと優雅さと、歴史が育んだ文化に惹かれたからです。フランス語は第二外国語として勉強し、独特の発音に興味を持ちました。また、フランスの芸術や文学、音楽や料理といった文化は歴史と深く関係しています。そして、「仏文」は行事も多く、フランスの多様な文化に直接触れられるということもあり、絶対にこのコースに入ろうと思いました。

○自身の興味

今の私の興味はフランスの観光資源や料理です。「仏文」と聞くと難しいフランス文学の読解を想像されるかもしれませんが、実際はフランス語圏のことであれば何でも学べるといった感じです。私は旅と料理が好きで、フランスは地方ごとに全く違う文化を持っているので、調べれば調べる程どんな興味深くなります。香水の街や花の都、美食の街など、学んでいくとどんどん興味が湧いてきますよ。

○コースの雰囲気・特徴

なんといっても行事の楽しさでしょうか。毎年フランス共和国成立記念日を祝う「巴里祭」では学生たちがフランス料理を持ち寄り、先生方やフランスからの留学生と交流したり、とても楽しいイベントです。学生と先生の距離が近く、自由で、好奇心があればいかようにも学ぶことができますというのも特徴です。また教授陣は皆さんユニークで、授業内での意見の交流も活発ですよ。



3回生 まつだ あなん
松田 阿南 さん

● 教員紹介

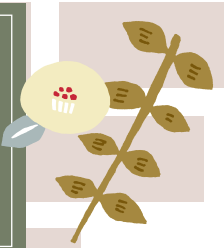
福島 祥行 教授 Yoshiyuki Fukushima
相互行為・コミュニケーション研究、応用社会言語学、(弱いロボット)の思想、言語教育=学習(グループワーク、ポートフォリオ、複言語・複文化)、演劇による防災・減災、境界論、仏語圏学
「すれちがいの意味論——維新派のことばと相互行為——」、永田編『漂流の演劇』(大阪大学出版会、2020)
『キクタン フランス語会話【入門編】』(アルク、2016)

白田 由樹 教授 Yuki Shirata
19世紀末フランス・ベルギーの文化、ジェンダー・エスニシティの表象、アール・ヌーヴォー等の研究。
『サラ・ベルナール—メディアと虚構のミューズ—』(大阪公立大学共同出版会、2009)

原野 葉子 准教授 Yoko Harano
20世紀フランス文学・文化。戦争、実験文学、空想科学。
編訳 ポリス・ヴィアン著『夢かもしれない娯楽の技術』(水声社、2014)

● 卒論タイトル例

- ・異言語話者間コミュニケーションにみるジェスチャーの有効性とインタラクションによる協働構築 —情報交換実験にみるコミュニケーション戦略—
- ・ロドルフ・テプフェールの版画物語における表現方法とその効果
- ・フランスにおける、バカンスを支える制度と国民の意識



● フランス語圏言語文化領域 オスズメ入門書

『ヨシとクニのかつ飛ばし仏語放談』
【著者】福島祥行+國枝孝弘
【紹介】
これは書籍ではなく、創刊九十五年をほこるフランス語学習者むけの月刊誌『ふらんす』(白水社)に、48回にわたって連載された対談形式のエッセーの無料WEB版です。著者は、「ヨシ」こと福島と、「クニ」こと慶應大学湘南藤沢キャンパス(SFC)の國枝先生。それぞれ言語学と文学という異なる専門からスタートしましたが、NHKフランス語講座の講師をつとめたこともあるふたりは、フランス語教育を通じてひろい関心を共有しています。そんなほくらが、フランス語とフランス・フランス語圏を入口に、ことばと人間、文学と映画と漫画、社会、歴史、記憶、複言語・複文化主義などについて、愉快な語り口で(たいていへんなマクラがある)、好き勝手に放談したのですが、その内容には、フランス語学習はもちろん、フランス語圏言語文化領域での学びにかかわるエッセンスが詰まっています。フランス語圏学の豊穡さを示す一書(1WEB Bサイト?)といえましょう。